

第24回大学教育研究フォーラム
参加者企画セッション

学修成果の多角的・継続的な可視化とその活用
～ 育成と一体化した評価への試み ～

追手門学院大学による
学びと成長の可視化
成果と課題

2018年3月21日（水）

ベネッセ教育総合研究所

木村 治生

2016年4月
wave1

2017年4月
wave2

大学生基礎力レポート I

大学生基礎力レポート II

* 大学生基礎力レポートは、株式会社ベネッセ i-キャリアが開発。

- 学習に対する意識・実態
- 大学に対する意識・満足
- 基本的な能力
→ 学力、批判的思考力

学内外の活動

- 学習に対する意識・実態
- 大学に対する意識・満足
- 基本的な能力
→ 学力、批判的思考力

学内外の活動

入学時

2年次

全国データ

追手門データ



①

全国データとの比較から
各時点での学生の状況を可視化

①

②

パネルデータから
学生の変化（成長）を可視化

A

量的データから
明らかになった成果と課題

B

質的データから
明らかになった成果と課題

③

面談による
学生の成長の
可視化

成長に課題がありそうな
個人の抽出

「アサーティブ・ラーナー」の育成の実態

- 追手門学院大学で学ぶ選択肢を自ら決める意志と態度
- 言語・非言語(数理)の基礎学力の向上に取り組む姿勢
 - 議論を楽しみ表現する態度

①アサーティブ施策の検証

アサーティブプログラム・アサーティブ入試は、その施策がねらいとする学生の獲得・育成に成功しているのか。

②学生の学びと成長の可視化

学生がどのようなプロセスで成長しているのか。
アサーティブ施策が重視する要素を、すべての学生が獲得しているのか。



さまざまな教育プログラムや
学内施策の検討・実施・改善への活用

①きわめて高い「第一志望」の割合

アサーティブ生の9割以上が「第一志望」

②進路について明確なビジョンを持つ学生が多い

自己理解も高く、進路の研究など実現に向けての行動もしている

③協調的問題解決力を発揮する学生が多い

多面的な思考に優れ、チーム内で自己の役割を意識して行動している

④相対的に基礎学力が低い学生が多い

入学時は「推薦生」と同程度だが、入学後に相対的な位置が低下

⑤学習習慣は入学後に改善

自習時間、読書冊数ともに高校時代は不十分な学生が多いが、入学後は全学平均レベルまで改善



個人帳票からとくに課題がありそうな10名を抽出して、
インタビュー調査を実施

②自己の学びを省察してもらおうインタビューフローを作成し、インタビュー調査を実施。学生自身に **学びと成長** を言語化してもらおう。

ふだんの様子・人間関係、学びの状況（授業の様子など）、将来・進路展望、悩みなど

[2017 進学門・ベネッセ共同研究] 実施日 / / , 開始時間 : , 実施者 : インタビューシート 氏名: <input type="text"/> 入試区分: <input type="text"/> 学部: <input type="text"/> 学科: <input type="text"/>	(帳票で確認) <input type="checkbox"/> 自宅から通学 <input type="checkbox"/> 下宿から通学 進学理由 () 大学志望度: 第 志望 学部志望度: 第 志望
--	--

実施、インタビューにあたっての事前確認 (5分)

<p>①お名前確認 ⇒ ご挨拶・自己紹介 ⇒インタビュー2人ともに自己紹介 ②研究能力の同意確認 ⇒必ずサインをもらう。保護者の指示。 ③こちらからの事前確認事項・お約束事のお伝え ⇒「インタビューにあたってのこちらからの確認・お約束」を見せながら本日の調査を開始 答えてくれないことは、無理に回答しないで良い旨を伝える。ここで録音をしてよいが許</p>	<p>Ⅲ: 学びについて (時間制表・これまで履修した科目の一覧を見ながら確認) Q8: 大学の授業は楽しいですか? 授業を通して、自分が成長している、という実感はありますか? Q9: 一番面白かった、成長できたと思う科目、印象に残っている科目を教えてください(理由とその授業内容)。 Q10: 一番面白くなかった、ついていけない、しんどかった科目を教えてください(理由とその授業内容)。 Q11: 一番面白かった科目、一番面白くなかった科目における、先生との関わりや「質」の違いをお聞かせください。 Q12: 履修を断念、どの科目を履修するか考える際に、何を基準に選択していますか? [Q9-10] Q9-Q10: 他大学や他学部・他学年の学生と学ぶような機会はこれまでにありましたか? (他演習の機会の有無) [Q12] Q8-Q12-1: シラバスはどのように使っていますか?何を重視して科目・授業を選んでいきますか? Q8-Q12-2: 次学期以降、学んでみたい科目、楽しみにしている授業はありますか? 一 ある場合は内容を追加質問。 Q8-Q12-3: 大学の4年間を通して、何をどのように学んでいくか、イメージ(見直し)を持っていますか?</p>
<p>Ⅰ: 進学理由・入学前後の大学に対するイメージ Q1: 進学先として進学門学大を選んだ理由を教えてください(卒業に、どんな目標でこの Q2: 入学してきて、当初のイメージや期待とおりでしたか?【よかった・悪かった、イメー</p> <p><関連質問項目> [Q1] Q8Q1-1: 他に受験した大学、学部、学科は? Q8Q1-2: 進学門大学の志望の強さは? [Q2] Q8Q2-1: (「進学理由」に、学びに関する内容が出てこなかった場合) 学びの原動力として、</p>	<p>Ⅳ: 進路・将来展望 Q13: 大学卒業後、どのような進路を希望していますか? (決まっていなくてもいい) 就職先(職種)でも OK Q14: 10~15年後、どのような生活をしたいと思えますか? (イメージでなくてもいい、こういう生活をしたい、優先したい事など) Q15: これまでの学生生活+「今」の現状を総合して、満足度を評価したとき、100点満点の何点くらいですか? Q16: これから卒業までの間に、取り進んでみたいこと、やっておきたいことは何かありますか? [Q13] Q8Q13-1: なぜそれ(6)を、したいと思うようになったのか? (そのきっかけ・動機) Q8Q13-2: 希望する進路の実現に向けて(あるいは希望する進路を見つけるために) これまでにしてきたことはある? Q8Q13-3: 希望する進路の実現に向けて(あるいは希望する進路を見つけるために) これからしたいことはある?</p>
<p>Ⅱ: 普段の過ごし方や、習得に取り組んでいること(人間関係に関する質問を含む) Q4: 部活・サークルへの所属、アルバイト、ボランティア活動など、習得に取り組んでいること Q5: 1週間の時間配分、力の入れ方の比重、一番力を入れていることは? Q6: 専攻の大学の授業の予習・復習や、授業以外の自主的な勉強にどれくらい取り組んでいる Q6: 専攻の友だち付き合いの中で、最も仲の良い(関係性が深い)のはどのような人ですか (同じ学部、サークル・部活、バイト先、高校時代の友人など、どのコミュニケーションも Q7: 学内で(友人でなくても可)「すごいな」「おねえな」と思う人や、いい刺激を受け</p> <p><関連項目> [Q3] Q8Q3-1: 授業の空き時間は、どこでどのように過ごしていますか? [Q4] Q8Q4-1: 1週間の中で、読書をする機会はありますか? (ある) どのような種類の本を、と</p>	<p>Ⅴ: 悩み・困っていることなど Q17: 学生生活の中で、困っていること・悩み・解決したいことはありますか? 例えば、下記について(例として出す) 1) 生活面、2) 人間関係面、3) 学習面、4) 進路面、5) その他 Q18: 大学に対する要望、不満はありますか? [Q17] Q8Q17-1: 悩みがある場合、誰か相談できる人はいますか? (今なくても困った時、誰か相談できる人はいますか?) ⇒ 学内に相談先があることを知っていますか? (学内の相談先を列挙してもらい、華がなくなったものについて面談者から提示) ※ 既知情報(確認)アナウンス ⇒ いざとなったとき、相談してみようと思えますか? それとも懸念が高い? (何があれば相談しやすい?) [Q18] Q8Q18-1: これまでに「履修したかったけれど履修できなかった」「事前知らずに履修したかった」授業など はありますか? 大学からの授業や教育プログラムに関する情報提供についてどのように感じていますか?</p>

プロフィール	Bさん 経済学科／内部推薦	Eさん 心理学科／アサーティブ
① アセスメントから 課題を抽出	<ul style="list-style-type: none"> ● 退学、再受験を検討 ● 大学教育に対する満足度が低い ● 「学びたいこと」がない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業のレベルが高すぎる ● 授業について行けるか不安
② インタビューによる 課題の確認	<ul style="list-style-type: none"> ● 学ぶ目的の不足 ● 内部進学で早期に進学が決定 →十分に検討しなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学での学びへの不適應 →大学での履修やレポートの書き 方などが分からず戸惑い
③ 学生生活に対する 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 100点満点で65点 ● やりたいことは一杯だが、できて いない。それなりに楽しんでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 100点満点で70点 ● 興味ばかりで単位を取得。これを 学んだと言えるものを作りたい
④ 面談者による 他者評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 要支援。生活習慣見直しが必要 ● 将来に向けて必要となることを考 え、行動する姿勢が不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援の必要なし ● なぜ心理学を学びたいかを語り、 自分なりの履修計画ができている

① 自らの学びと成長について語ることの教育的効果

- 学びを通じた成長（成果）と不足（課題）の自覚化
- 新たな目標や課題の解決方法の検討

② インタビュー調査対象者の約半数に課題あり

- 対象者の半数は、自らのリソースで課題を解決していた→支援不要
- 残りの約半数は、何らかの課題を残したままだった→要支援



★ アセスメントをスクリーニングにしたインタビュー(面談)は、

- ① サポートが必要な学生に必要となる支援を行い、
- ② 学生が自らの「学びと成長」を可視化するのに有効

① 学びに対する態度・姿勢はよいが、 入学後に成績が停滞する学生をどう支援するか

- アサーティブ施策は、アサーティブラーナーを選抜するのに効果的
- ただし、高校までの学習習慣は不十分で、入学後に成績が停滞する傾向

② アサーティブ生を学内でどう位置づけるか

- 意識は前向きだが学力に課題があるアサーティブ生の学力の引き上げ
- 一定の学力はあるが意識に課題がある一般生の意識の引き上げ
- 両者の強みを生かした学びの活性化

③ アセスメント→インタビューの有効性は確認できたが、 どのように学内で仕組化するか

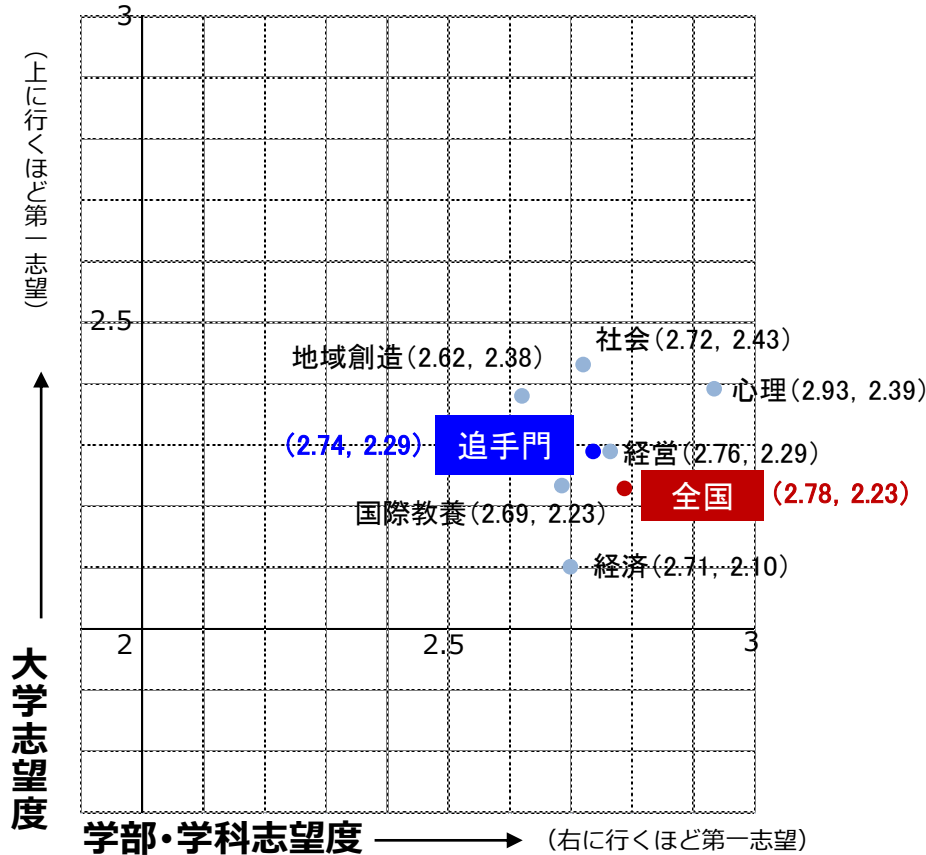
- アセスメントにより支援が必要そうな学生を効率的に抽出
- インタビューの教育的効果を確認
 - 1) 大学としては学生に対して本当に支援が必要かがわかる
 - 2) 学生にとっては自らの学びと成長の内省につながる

參考資料

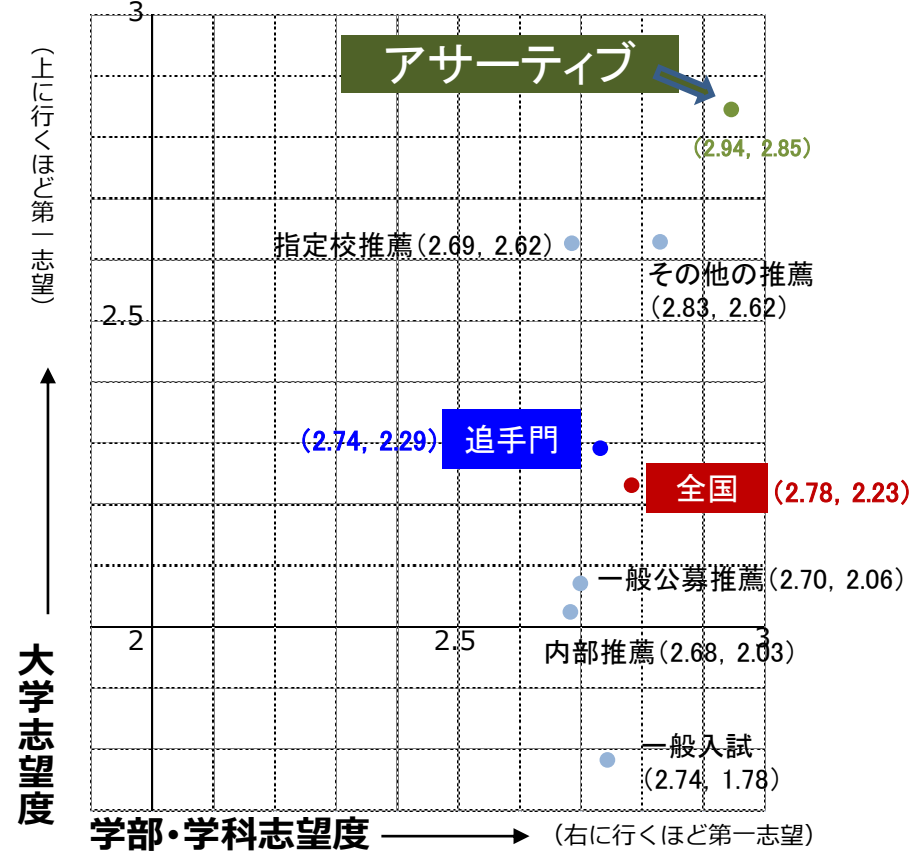
入学時から2年次の変化は、全国データでも下がる項目が多い。2年次になると入学時の高揚感がなくなったり、自己を客観的に評価できるようになるためと考えられる。今回の追手門学院大学のデータやアサーティブ生のデータも、2年次に数値が下がる項目が見られるが、そのことは大学の教育力の低下などを直接的に意味しているわけではないことを付言する。

今回の分析では、一見するとマイナスに変化しているように見える項目も含めて、教育の質向上につながり、学生にとってメリットがあるからという理由で、自由な分析と提言を許していただけた。施策を評価する分析にとどまらず、学生の視点に立って、常に教育の質向上を考えようとする大学の姿勢に敬意を表する。

●学部系統別



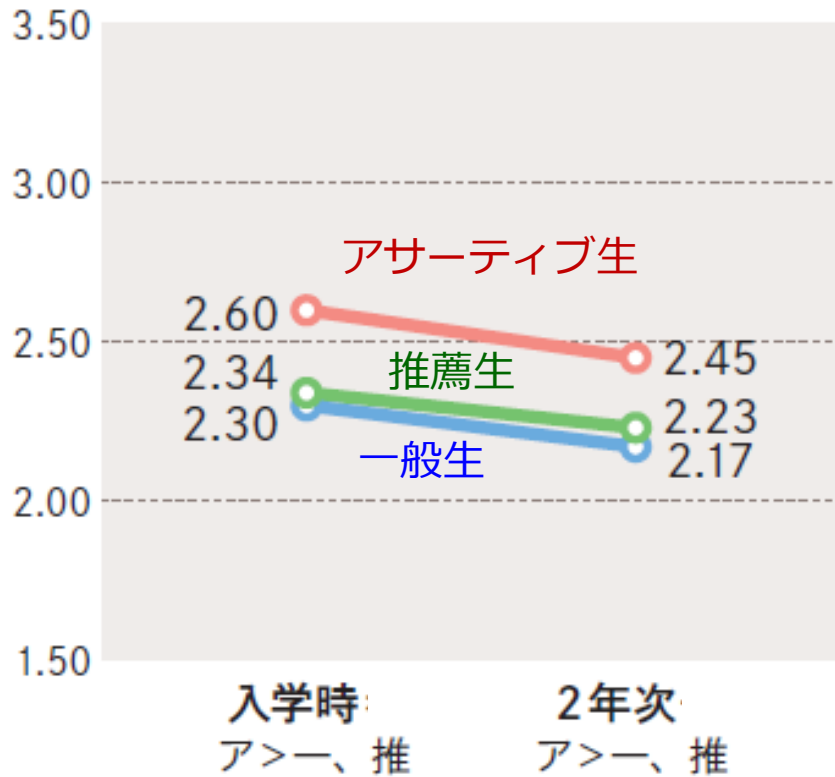
●入試区分別



「アサーティブ生」は、9割が大学も学部・学科も「第一志望」だと回答。
 この数値は、全国平均、追手門学院大学平均から見てもきわめて高い。
 追手門学院大学で学びたい学生が選抜できている。

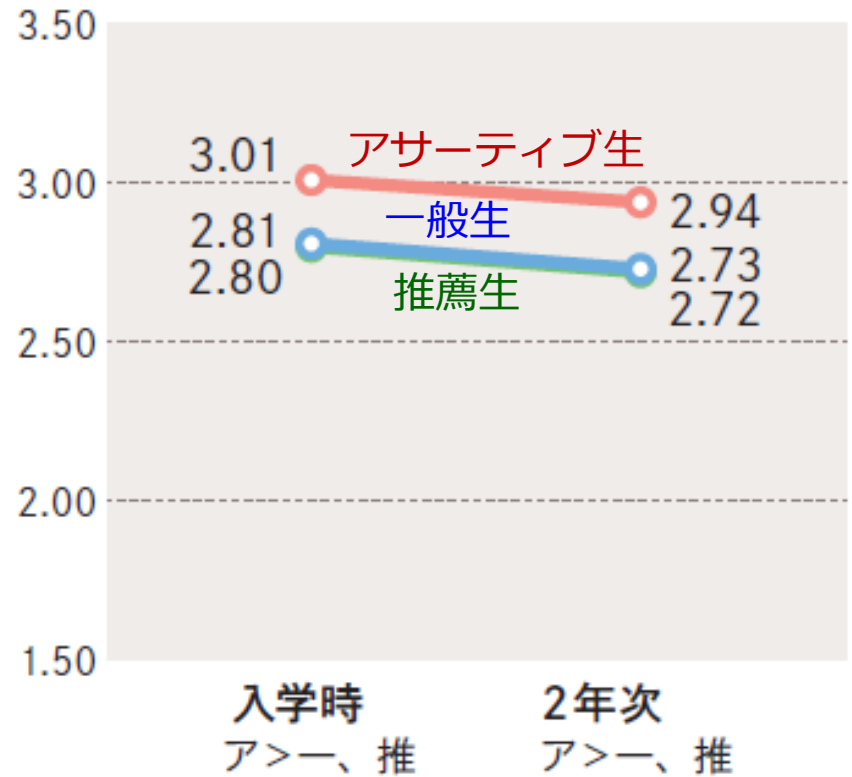
進路の明確度

- 自分が就きたい職業が明確である。
- 志望業界や希望する進路がほぼ決まっている。
- 自分がやりたい仕事のイメージがはっきりしている。



自己理解

- 自分の性格の長所と短所を理解している。
- 自分の得意な能力分野を知っている。
- 自分の人生で、何を価値のあるもの、大切なものと考えているかがはっきりしている。

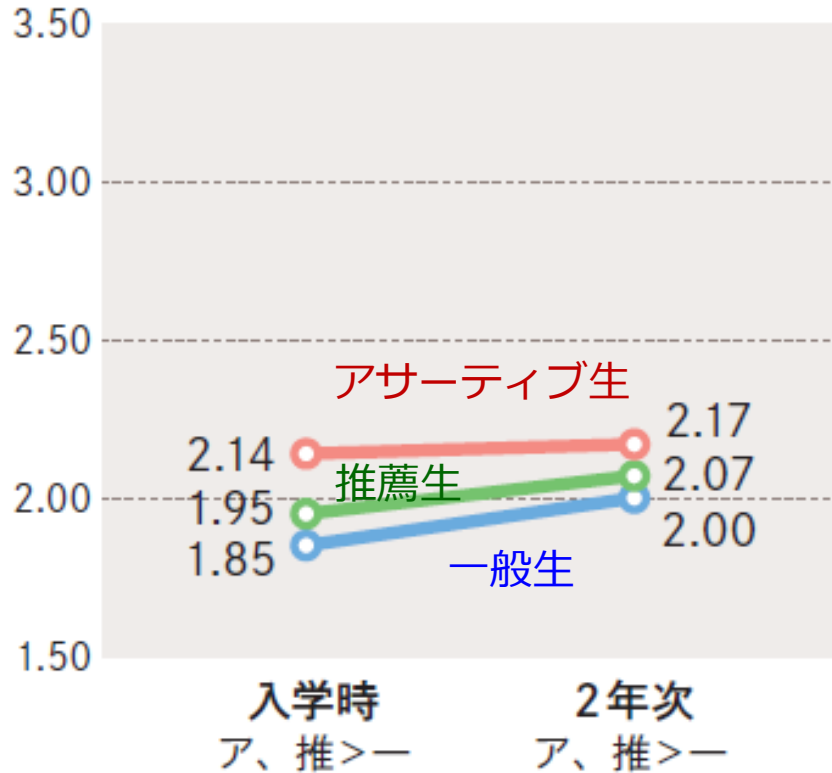


*全体は1~4点の間に分布。*有意差の検定は、多重比較 (Scheffe法)による。

「アサーティブ生」は、進路の明確度、自己理解ともに高い。2年次もほぼ、同じ水準を維持している。

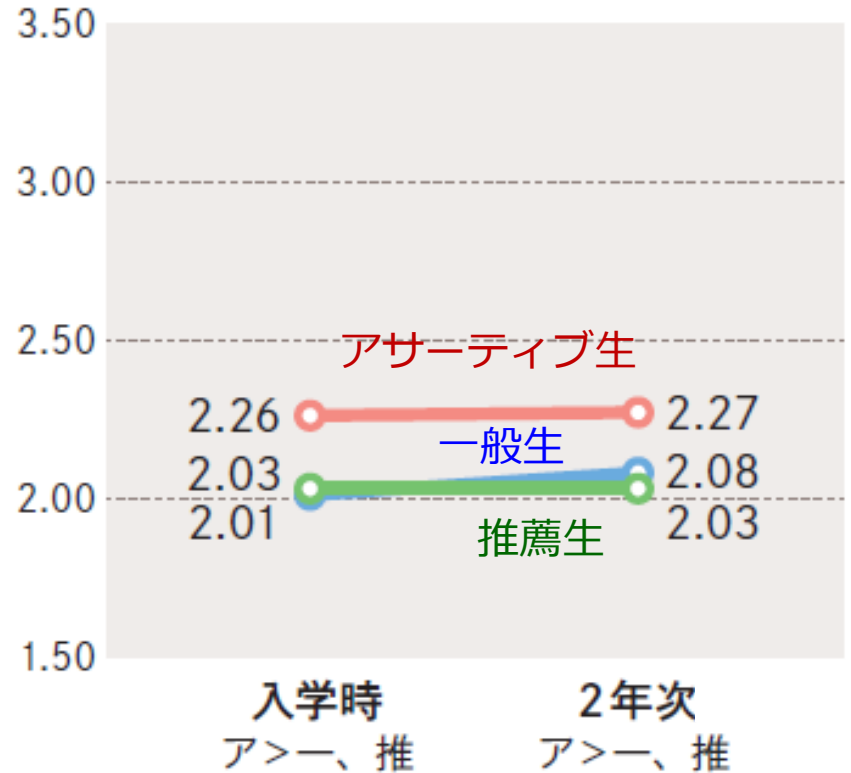
進路実現行動

- 採用・入社試験または大学院入試に向けての勉強をしている
- 仕事や進路に関する情報を得るために、社会人に話を聞く
- 希望する進路の実現に向けて、アルバイトやインターンシップなどの活動に取り組んでいる。



進路の研究・理解

- 自分が関心のある企業や業界についての研究をしている。
- さまざまな職業や職種についての研究をしている。
- 職業を取り巻く社会や業界について理解している。

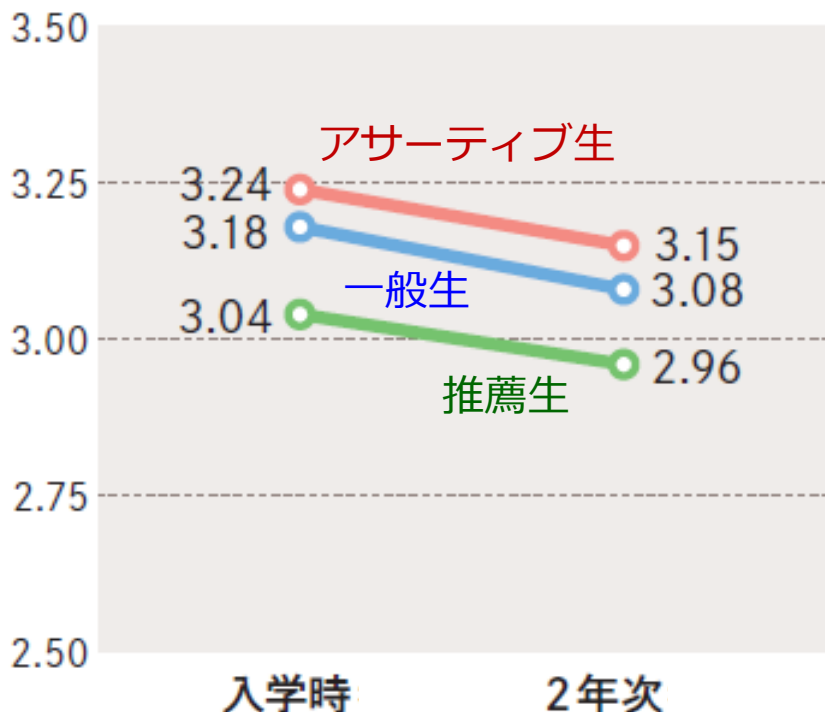


*全体は1~4点の間に分布。*有意差の検定は、多重比較 (Scheffe法)による。

「アサーティブ生」は、進路実現行動、進路の研究・理解ともに高い。2年次もほぼ、同じ水準を維持している。

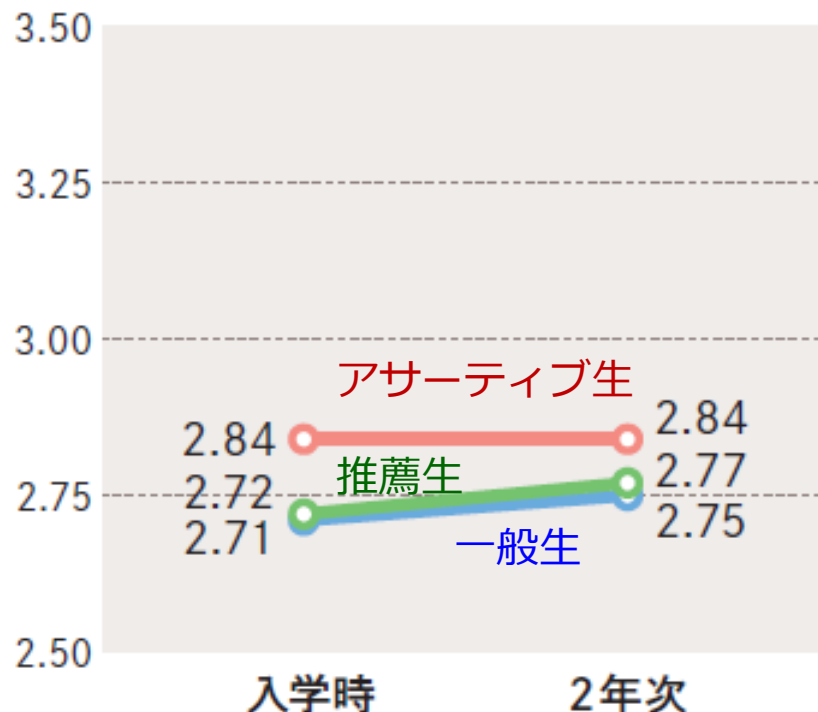
多面的な思考

- 相手と物のとらえ方が違った場合、なぜ違うのかを考えた
- わからないこと・疑問に思ったことについて、さまざまな情報源から情報を集めた
- 自分とは違う考え方をする人から自分にないものを学んだ



計画の立案と遂行

- 目標を持ったら実現のための計画を立てた
- チーム活動や試験勉強などで立てた計画はきちんと実行した
- レポートの課題に取り組むとき、いつまでに何をするのか具体的に決めてから取り組んだ

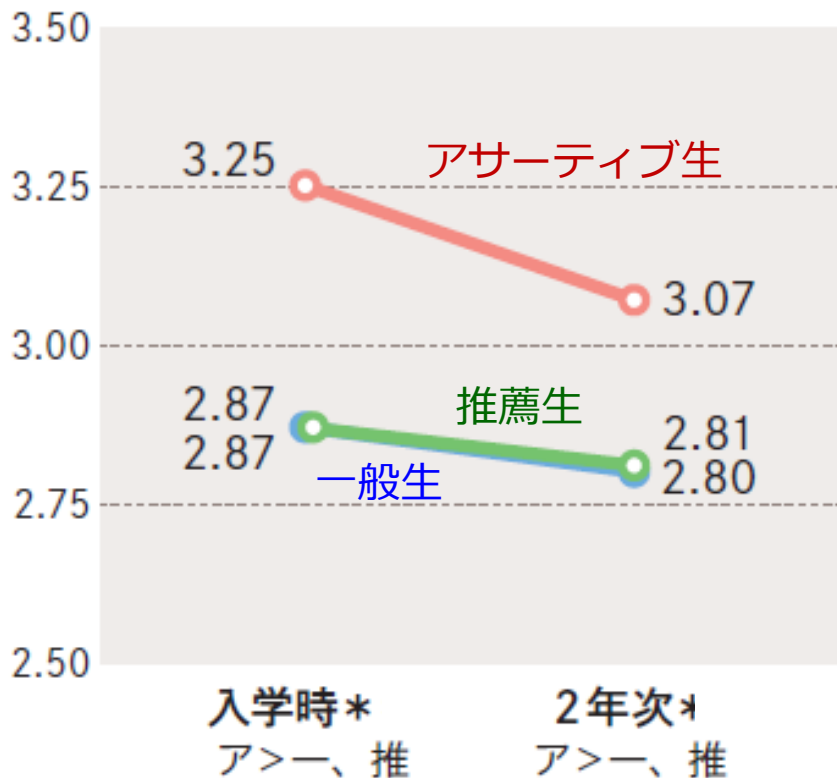


*全体は1~4点の間に分布。*有意差の検定は、多重比較 (Scheffe法)による。

「アサーティブ生」は、多面的な思考、計画の立案と遂行のいずれも高めだが、有意差はない。

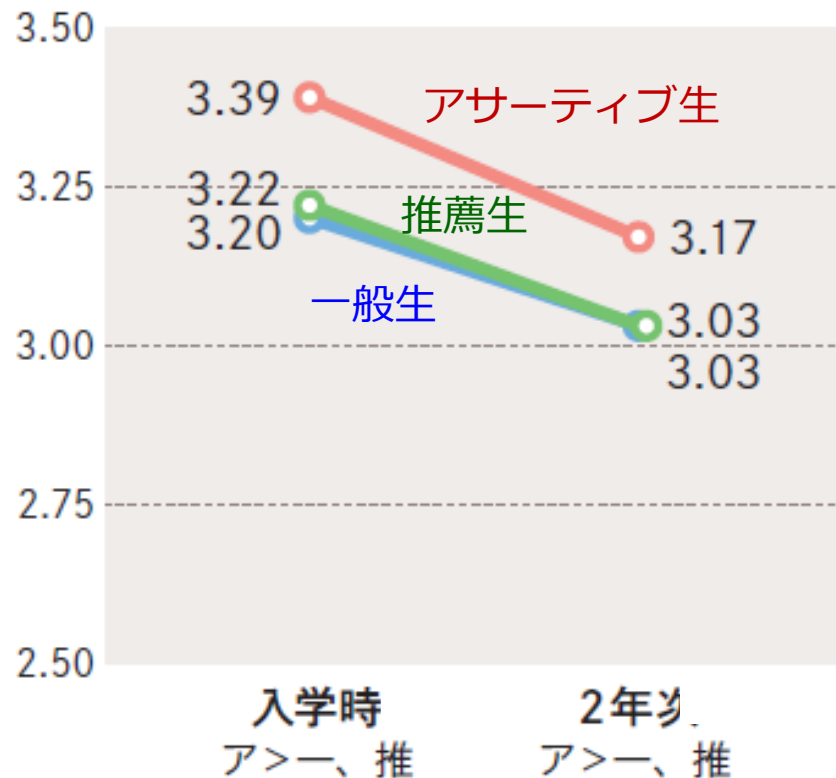
チーム内での役割の遂行

- チーム内では自分の考えや意見を積極的に主張した。
- チーム活動で意見を出すとき、できるだけ新しいアイデアを出した。
- チームの中で自分が何をすべきかを考えて実行した。



実行・挑戦

- 目標ややるべきことは意識し続けた。
- 進路など自分にとって大切なことは自分で決めてきた。
- 嫌なことや苦手なことでも、その経験はためになると思って取り組んだ



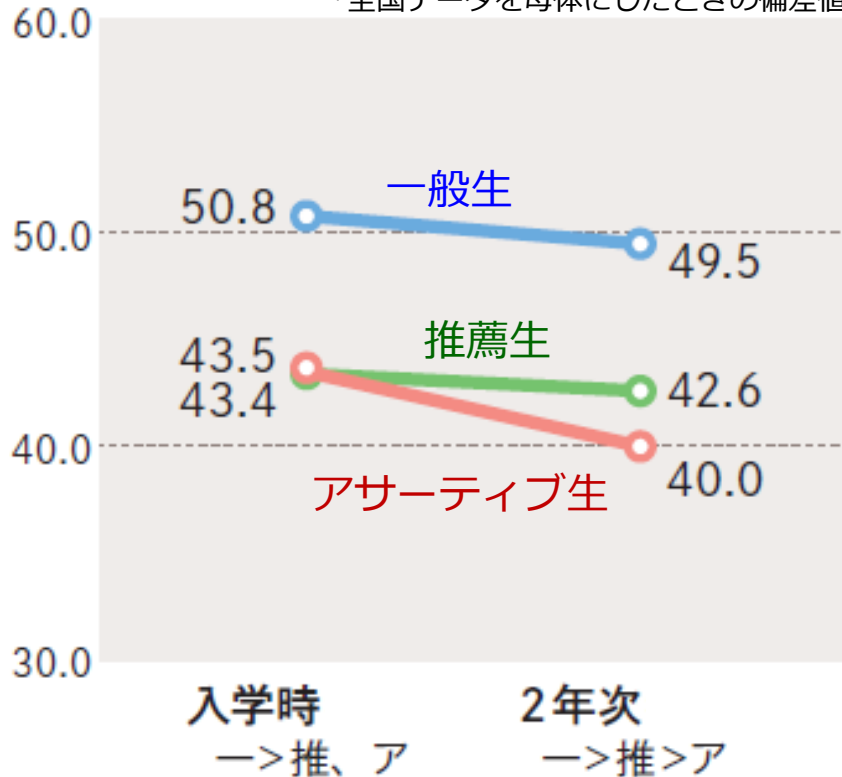
*全体は1~4点の間に分布。*有意差の検定は、多重比較 (Scheffe法)による。

「アサーティブ生」は、チーム内での役割の遂行、実行・挑戦ともに高い。ただし、2年次にかけて、いずれの属性も数値は下降。

基礎学力

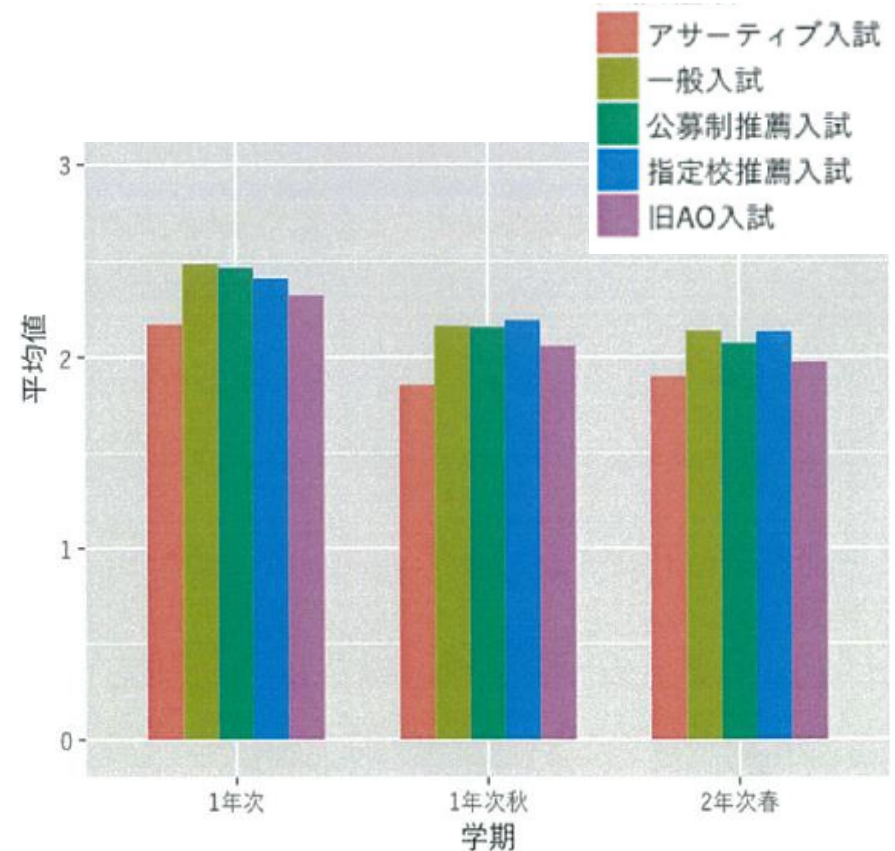
- 日本語理解(10問)
- 英語運用(10問)
- 判断推理(7問)

*全国データを母体にしたときの偏差値



*有意差の検定は、多重比較 (Scheffe法)による。

【参考】GPA

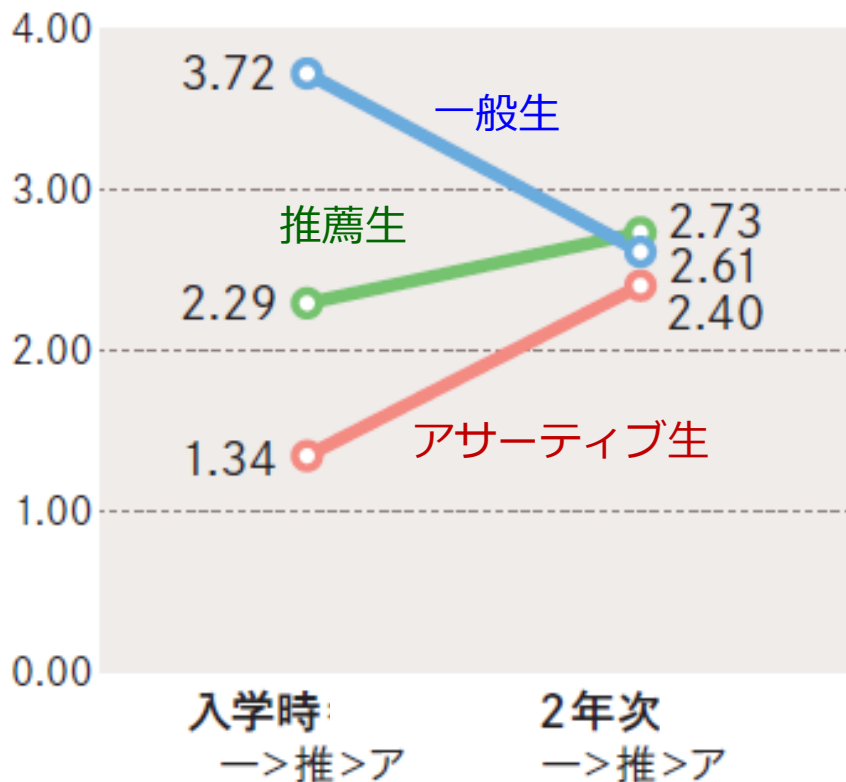


*追手門学院大学・原田章先生の分析による。

基礎学力は「一般生」がもっとも高い。「アサーティブ生」は、入学時は「推薦生」とほぼ同等だが、**2年次にかけて低下する。**

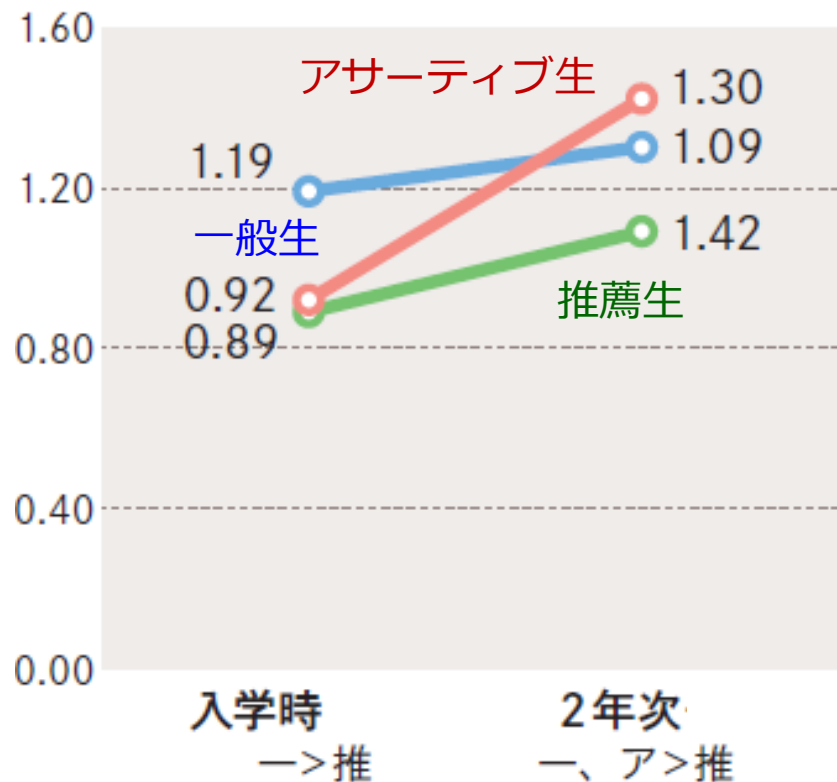
自習時間(週当たり)

- 入学時は、高校時代の自習時間(塾・予備校での学習を除く)
- 2年次は、大学の授業以外の自習時間
- * 選択した時間の中央値を数値に換算して平均値を算出



読書冊数(月当たり)

- 普段の読書冊数
- * 選択した冊数の中央値を数値に換算して平均値を算出



*有意差の検定は、多重比較 (Scheffe法)による。

「アサーティブ生」は入学時に低かった「自習時間」が入学後に改善。読書冊数も、増加している。